

椎の木



家庭教育学級「スマホの本当の問題と、中学生とのリアルの関わり」

2月18日(月)本校第二会議室にて家庭教育学級が行われました。講師として NPO 法人あそび環境 Museum アソビ・バーン関西事務所長の北崎 圭太様をお招きしました。東部中学校の保護者の方だけでなく、近隣の学校の保護者の方等も参加いただきました。スマホの問題については、学校便りで何度かお伝えしていますが、中学生を子を持つ保護者の立場として、どのような視点でこの問題を考え、保護者としてどのような姿勢を大切にして中学生と関わるか、膝を交えて意見交換をしました。その話し合いの内容の一部を記載します。これからも子育てについて同じ悩みを持つ者として素直に悩みや考えを打ち明け、意見交換や助言等出来る場があるといいなと思いました。貴重な研修会となりました。



＜話し合いのテーマ＞

スマホは危険だから子どもに持たせてはいけない。それは無理なこと。持たせていい。そこでスマホを使用する本当の問題はどこにあるのか、考えてみませんか？

スマホの危険性は防犯教室等でよく伝えられています。

＜例えば＞

①体に悪い

目に悪い。視力が低下する。効き目のみよくなる。脳に悪い。(スマホ依存症の脳は脳の一部が萎縮すると言われています。それは薬物依存症のケースと同じだそうです。)

②生活の乱れ

夜更かしをする。睡眠時間が短くなり、学校に来てもボーとしている。食欲不振、成績が低下する。

③犯罪被害に遭う

ライン等からいじめにあう。金銭の詐欺、個人情報の流失、出会い系サイトによる性被害、誹謗中傷の書き込み。

危険性を周知し、自分で身を守るようにする。家族で約束を決め、被害に遭わないようにするということが学校でも指導しています。このことも大切ですが、今日は子どもがスマホの依存するその根本はどこに原因があるのか、考えてみましょう。

次の話題：スマホを使うことで、私たちが手に入れたこと・失ったことはなんでしょう？

このテーマに基づき、グループで意見交換をしました。

＜手に入れたこと＞

- ・ 便利さ ・ 情報量の多さ ・ 一人での時間 ・ つながりの希薄さ ・ 新たなストレス
- ・ 世界的なつながり

＜失ったこと＞

- ・ 自分の手で準備をすること ・ 会話 ・ 直接人と出会って関係をつくること
- ・ 自分から取り組もうとする意欲 ・ 想像力・深く考える力・睡眠時間・勉強時間
- ・ 寛容さ(仮想空間と現実を混同してしまい、我慢できない)

日本のこどもの実態は？ネットゲームのホントの問題は？

ユニセフの調査では15歳の30%がさびしいと感じ、40%が親との会話がなく、自分が幸せだと思う人は全体の19%しかない。



スマートフォンの過剰利用で「考える」「遊ぶ」「関わる」「出会う」など、生活の中で面倒なことが、便利なスマホ任せになり、やらなくなるのではないかな？



＜ネット依存はリアル離れ＞

考えない・遊ばない・関わらなくなるなど生きる上での大切な部分から逃げてしまうのでは？一番大切なことは子どもと関わること。顔をつきあわせて話をする。共に汗を流してみる。

＜大切にしたいこと＞学校としての考えも入れました。

- ① スマホの使い方の危険性は正しく理解し、約束は話し合い、理解させた上で守らせる。学校でも4月に防犯教室を計画します。危険性を正しく認識させ、全校の約束を再度確認します。ご家庭でも話し合いを大切にし、使用の約束の確認をお願いします。
- ② これは便利にはしてはいけない。と思う物はスマホに任せず、労をして準備をする。親や祖父母、友達、先生との関わりは丁寧にしていきたいです。ご家庭では食事時は皆で会話をする。こどもの話はどんなに忙しくても目を見て聴いてやる。小学生の保護者の方で子どもに自転車の乗り方を教えるときに、「タブレットを使って教えようとしたが、一緒に公園で教えてよかった。」という意見が寄せられました。学校でも「声なき声を聴ける教師になる」「子どもに寄り添い共に汗を流す」このことを大切にしていきます。
- ③ 大人が覚悟を決めて使いましょう。電車の中の会話です。おじいちゃんが孫の中学生に「窓の外の富士山とてもきれいだよ。みてごらん」と。孫はスマホを操作し、話を聞き流し、おじいちゃんはさみしい表情。そのとなりの親子。小学生の子どもがお母さんに「ねえ、窓の外の富士山がきれいだね。」母親はスマホを夢中になって扱っていて、話を流してしまう。子どもはさみしい表情で母親をみている。大人の行為が子どもに与える影響をもう一度考えてみましょう。
- ④ ネット依存は親のせいではない。ネガティブよりポジティブに「こんなに子育てがんばってきたのに、こうなってしまった。」「こんな子どもに育てた覚えはない。」こういう発想ではなく、「ここまでがんばって育ててきた。」「子どもは元気で生きている。それだけで感謝」こういう風にポジティブに見方を変えて…。